

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079800233		
法人名	有限会社 あきの		
事業所名	グループホーム ひなたの家	ユニット名: 1ユニット	
所在地	福岡県田川郡福智町弁城2482 - 1		
自己評価作成日	平成23年7月24日		

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年8月10日	評価結果確定日	平成23年9月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度以上は外出、外食、買い物の行事を行い、ストレス軽減や気分転換に取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームには花壇や畑があり、利用者と種を買いに行き種蒔きをしている。水やりや草取り等、世話や管理を一緒に行なっている。花壇の花は、生け花が得意な利用者に生けてもらい、玄関に飾られている。実った野菜を(トマト・キュウリ・ネギ・ジャガイモ・ピーマン等)一緒に収穫し、もぎたて野菜が食卓にあり、食することが楽しみにしている。また、月1回は外食やクッキングを楽しむ機会があり、「食」の楽しみの支援が充実している。外食の他、ショッピングや行きたい場所に行けるよう個別対応に力を入れている。利用者のアセスメントから導き出された課題に対応したケアプラン、モニタリング、支援経過、介護記録と全て連動した記録がされており、プランに基づいたケアが実施されている。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念としては、老人を常に尊敬し、自然に囲まれ、慣れ親しんだやさしい生活環境の中で役割を担って頂き、日々その人らしく余生を楽しく暮らして頂く為に作成した。管理者並びに職員はその理念を共有して唱和し、いつも胸に刻んで実践に活かしている。	玄関や事務所に理念を掲示し、朝礼では理念を唱和している。月1回の職員会議でも理念について話し合う機会を設けている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の広報誌を届けて頂いたりと少しずつではあるが、地域の一員として交流に励んでいる。	散歩時には近所の方達と挨拶を交わし、何気ない会話が出来ようになり、野菜や花、果物等の差し入れも頂くような関係になってきた。8月下旬に行なわれる地区のお祭りでは、利用者約8名が参加する予定である。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々にまだ活かしていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者とサービスの実践について、状況等の報告と話し合いを行い、そこでの意見や要望を事業所のサービス向上に活かしている。	2ヵ月に1回定期的に開催している。構成員は、利用者代表、家族代表、町議会議員、町職員、会議担当職員等からなっている。議員より地域の情報を得る事が出来、ホームから地域へ要望を聞いてもらい対応してもらっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、事務的な面で協力関係を築いている。又運営推進会議にて事業所の実情やサービスへの取り組みを伝え、より良いケアサービスを提供するために、議論で意見を出して頂き、協力関係を築いている。	今年度は町の担当者が変わり苦慮しているところだが、ホームの実情を報告し、何かあれば相談し助言を頂く等、協力関係は構築されている。生活保護の利用者もいる為、ケースワーカーとの連絡・相談も密に行なっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務日誌に身体拘束の具体的な禁止行為についての資料を挟んでおり、常に目に入るようにして、理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしない方針であり契約時に説明をしている。夜間のみ転倒転落防止の為、離床センサーを利用している方もいるが、使用開始前には家族に必要性を説明し同意をもらっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務日誌に高齢者虐待防止関連法についての資料を挟んでおり、常に目に入るようにして、理解を深め、絶対に虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の玄関に成年後見制度についてのパンフレットを置いており、管理者や職員がいつでも閲覧できるようにしており、必要性がある場合には関係者に相談し、それらを活用できるように取り組んでいる。	現在、成年後見制度を活用している利用者がいる。権利擁護に関する勉強会や研修は行っていない。	権利擁護に関する制度について、定期的に学ぶ機会を持ち、職員の知識の向上に繋がっていくことを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時、解約時、改定時の際には、利用者や家族等に十分な説明を行い、理解と納得を得るようにしており、又不安や心配な事、疑問点を尋ね、安心して頂けるように取り組んでいる。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が事業所の運営に関する意見、要望を表せるよう玄関に御意見箱を設置しているが、管理者や職員に直接申し出て頂いており、それらを事業所運営に反映させている。	意見箱を設置しているが、意見が入ることはない。面会時に直接関わりを持って、意見や要望を聴取している。また、運営推進会議に携わっている方の意見や要望も反映させている。	直接面と向かって言えない意見や要望等を、利用者や家族が安心して表出できるような機会を設ける工夫が必要かと思われます。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例の職員会議にて事業所の運営に関する職員の意見、提案について話し合い、それらを代表者や管理者に報告し、運営の改善に取り組んでいる。	月1回、全員参加の職員会議を実施し、職員の意見や要望、提案を聞く機会があり、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営者は、管理者や職員の個々の努力、実績、勤務態度を把握し、皆勤手当、割増賃金、賞与等に反映させ、各自が仕事に向上心を持って励むよう職場環境・条件に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	経営者及び管理者は、職員の募集・採用にあたって性別、年齢、経験等を理由に採用対象から外さないようにしている。事業所の職員に対しても、個々の能力を十分に発揮し、働きやすい職場にしており、希望の休みや冠婚葬祭等の権利が保障されるよう考慮している。	現在20代から70代の職員が在籍しており、定年制は設けていない。主に「やる気」を重視し採用している。ホームには職員休憩室があり、日勤帯で40分から1時間は休憩室で休息が取れるよう配慮している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	経営者及び管理者は、入居者に対する人権尊重の為に、職員に対しての人権教育、啓発活動にまだ取り組んでいない。	職員には常に理念に基づいて対応するよう話し合っているが、人権教育までには至っていない。	内部・外部の研修を含め、定期的に学ぶ機会を設け、啓発活動に取り組んで行くことを期待します。

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者は、管理者、職員個々のケアの実際と力量を把握しているが、研修の機会の確保は進めておらず、働きながらのトレーニングについてはその都度している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム協議会があり、その場で同業者と交流の機会ができ、ネットワークや勉強会、相互の訪問等を通じ、提供サービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを受ける前に、利用者本人とのコミュニケーションを図り、心配な事、困っている事、要望等に耳を傾け、又尋ねながら、安心してサービスを受けられるような関係作りに取り組んでいる。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを受ける前に、家族等とのコミュニケーションを図り、心配な事、困っている事、要望等に耳を傾け、又尋ねながら、理解を深めて頂き、納得した上でサービスを受けられるような関係作りに取り組んでいる。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを受ける前に、利用者本人、家族等とコミュニケーションを図り、直ぐに必要な支援がある支援、以前から利用していたサービスの支援を把握し、他のサービスや以前からのサービスも継続して受けられるような対応に取り組んでいる。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者本人を介護される一方におかず、生活空間を共にする家族同士の関係に取り組んでいる。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される立場におかず、家族とのコミュニケーションを大切にして情報交換を行い、利用者本人と家族とのこれまでの関係を大事に考え、共に本人を支援していく事に取り組んでいる。	職員は、家族を支援される立場におかず、家族とのコミュニケーションを大切にして情報交換を行い、利用者本人と家族とのこれまでの関係を大事に考え、共に本人を支援していく事に取り組んでいる。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者本人が以前より大切にされてきた知人、親友、思い出の場所との関係が途切れないよう、要望があれば、出来るだけかなえていけるよう取り組んでいる。	古墳が大好きな利用者には、古墳巡りを支援し、楽しみと生きがいの継続に努めている。家族や親友の面会を始め、電話や手紙のやり取りを手伝い、関係が途切れないように支援している。	

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	利用者同士とのコミュニケーションを図り、世間話、共通 した話題や趣味等により、利用者が孤立しないよう話し 掛け、お互いに支えていけるよう支援に取り組んでいる。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切 にしなが、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相 談や支援に努めている	利用契約が終了しても、利用中の関係性を大切にし、必要 があれば、相談や支援に取り組んでいる。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め ている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人のこれまでの生活パターンの把握と、希望と 意向に出来るだけ沿うような生活支援に取り組んでいる。困 難な場合には、出来るだけ本人本位を考慮している。	一人ひとりに担当職員がついており、思いや意向の把握に 努めている。新たな発見や意向に変化があった場合は記録に 残し、職員間で共有しケアに繋げている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これま でのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の生活パターンやリズム、部屋のレイアウト、 サービス利用経過等の把握に取り組んでいる。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状 の把握に努めている	利用者一人一人の生活パターンとリズム、日頃より思ってい る事や体調、出来る力等の現状の把握に取り組んでいる。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、 本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見や アイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人がより良く生活するために、本人、家族、職員、 ケアマネジャー、看護師と話し合い、各々の意見、意向、 要望等を反映させて、本人の現状に沿って、出来るだけ負 担にならないような介護計画の作成に取り組んでいる。	センター方式を活用し状態の把握に努めている。3か月に1 回、担当者会議を行ない、プランの見直しをしている。モ ニタリングは毎月実施しており、意向や身体状況の変化に 対応し、必要時はプラン変更している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録 に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の 見直しに活かしている	日々の行動や様子、ケアの実践・結果、変化や工夫をケア 記録等に記入し、職員間での申し送りや情報共有し、実践 と介護計画の見直しに反映している。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人の状態や家族の意向・要望、状況に応じての必要性に対し、現利用中のサービスに捉われず、訪問マッサージ、訪問カット、訪問診療、訪問歯科、病院やりハピリや外出・外食・買い物等の送迎の支援に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内の畑で育てている野菜を食材として使用したり、冬場には、渋柿をベランダに吊るして干し柿を作っており、地域資源を暮らしに活用して支援に取り組んでいる。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診については、本人や家族等の同意を得て訪問診療を採用しており、事業所との関わりを構築している。希望があれば、他のかかりつけの病院を受診しておりそこでも事業所との関わりを構築している。訪問診療、他のかかりつけの病院とも安心して適切な医療を受けることができる支援に取り組んでいる。	入居時に提携医の説明を行なっているが、提携医を強要することはなく、かかりつけ医の受診も支援している。受診の内容は記録し職員間で共有できるようにしており、家族へは電話で報告している。本人や家族が安心して医療が受けられるように努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の生活の中での情報や発見を、看護師に報告・相談し、一人一人の利用者が安心して適切な医療、看護が受けられるように取り組んでいる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時、安心して治療に専念できるよう、又出来るだけ早期の退院が望めるよう、医療関係者との情報交換、相談に取り組んでいる。入院に備えての医療関係者との関わりは築いていない。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期について、早い段階からは本人・家族等と話し合いは行っておらず、そうなった場合に、話し合いを行い、事業所で出来る範囲の事を十分に説明し、今後の方針について共有しながら支援に取り組んでいる。	契約時に看取りについての説明をし、その後状態が変化した場合等に、医師を交えて十分な説明を行ない、意向の再確認をしている。事業所としては希望があれば看取りをしていく方針だが入院になるケースが多い。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変、事故発生時に対応出来るよう、全ての職員は応急処置、初期対応の訓練については行っていない。そうした場合は、看護師報告・相談し、指示を仰いで対応している。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や自然災害時に、昼夜を問わず利用者が避難出来る方法を全職員は身につけておらず、地域との協力体制も築いていない。	消防署立ち会いのもと避難訓練を実施。次回は夜間想定訓練を予定しており、消防団にも参加をしておらうと計画中である。災害時に備え各居室に懐中電灯を取り付けており、非常食等の備蓄も行っている。	消防団を始め、近隣住民との連携を図り、災害時に協力が得られるよう今後の取り組みに期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、自尊心やプライバシーを損ねないよう声掛けと対応に取り組んでいる。	一人ひとりの生活歴を把握した上で、その方に合わせた声かけと対応に取り組んでいる。脱衣室にはカーテンが取り付けられており、不意に入室した場合に見られないよう配慮されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で利用者本人の意向・希望を表したり、出来るだけ自己決定できるよう支援に取り組んでいる。(外食、外出、買い物、娯楽等)		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まり、都合を優先せず、できるだけ利用者一人一人の生活ペースを基本に、その日をどう過ごしたいか伺いながら、希望・意向に沿って支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者がその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう訪問カットでの整髪、買い物で御自分でのおしゃれ物等選びの支援に取り組んでいる。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回クッキングを実施しており、利用者に食材の下拵えをして頂き、準備と食事を楽しんで頂いている。	月1回のクッキングと外食を実施しており、利用者の楽しみのひとつとなっている。クッキング日は利用者のリクエストメニューで、買い物から調理まで手伝ってもらい、外食はバイキングやレストランに行き、好きなものを注文している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量、栄養状態、水分量が一日を通して確保できるよう、一人一人の体調や力、習慣に応じて出来るだけ摂取して頂き、体調の維持ができるよう支援に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて、現在のところ、夕食後だけに口腔ケアを本人の力に応じて行っている。利用者の中には、訪問歯科の指示にて毎食後行う方もおられる。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の力、排泄パターン、習慣を把握し、定期的な排泄の声掛け、自立への支援に取り組んでいる。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりのパターンを把握しており、個別に声かけ誘導を行っている。失禁がある場合でも紙オムツに頼ることはせず、布パンツでの対応に努め、トイレで排泄できるよう支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を把握し、繊維質の食事や水分補給を促し、又運動や腹部のマッサージの声掛け等の一人一人の状態に応じた予防に取り組んでいる。無理な場合は、薬に頼っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に応じて入浴を楽しんで頂きたいが、事業所の都合上、曜日や時間帯や利用者の入浴順番を決めている。	少なくとも2日に1回は入浴できるようにしている。希望があれば毎日の入浴も可能であり、状況に応じて、その都度シャワーや入浴をし、柔軟に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人一人の生活習慣や状況に応じて、自由に休息して頂いたり、心配せずに安心して休むことができるよう支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服薬している薬の目的、用法や用量を把握しているが、副作用については把握していない。利用者への確実な服薬の支援と経過後の症状の変化の確認に取り組んでいる。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活が充実したものとなるように、一人一人の生活歴や力に応じた役割、趣味、嗜好品、楽しみ事、外食、外出等気分転換の支援に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>利用者本人の意向、希望、思いに出来るだけ沿って、外出(買い物、古墳見学他)が出来るよう支援している。</p>	<p>毎月1回は外出できるよう支援している。その他に日勤帯の職員を増やし、行きたい場所に行けるよう個別対応に取り組んでいる。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員は、利用者本人が金銭所持の大切さを把握しており、希望や能力に応じ、所持して頂いたり、買い物等で使用して頂くような支援に取り組んでいる。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族や知人に希望により利用者本人から電話をかけたり、出来るだけ手紙等の通信のやり取りが出来るよう取り組んでいる。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活空間は適温を保っている。玄関は広々としてソファ、テーブルを設置し、玄関先の壁には利用者の作品を貼っている。廊下はフラットで手摺りを設置している。居間・台所・食堂は共同のスペースで、カレンダーや壁に風物を取り入れて季節感を表現している。又調理中の音や香り等、生活感が感じられるような造りにしている。浴室・トイレは広く、車椅子のままでも入る事が出来、又手摺りを設置し、使用時に負担にならないような工夫を施している。トイレは西日を遮るよう簾を掛けている。</p>	<p>ホールや居間にはソファやマッサージチェアが置かれており、利用者や家族もゆっくりくつろげる場が確保されている。皆が集う居間の窓からは田園風景が一望でき、利用者は稲の成長を見て季節を感じる事が出来ている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>事業所の廊下には、ソファや椅子を設置し、気の合った利用者同士で気軽に座って話したり、くつろいだり、一人で休まれたりと思いいいに過ごしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者本人の居室は、本人と家族の意向や希望に沿って、使い慣れた馴染みの物、タンス、テレビ、布団、花瓶、家族の写真等を考慮し、出来るだけ本人が心地よく生活できるように配置している。</p>	<p>居室はシンプルな部屋もあれば、写真や絵、たくさんの縫いぐるみに囲まれた部屋がある等、利用者の好みで作りに上げた居室になっており、本人が安心して心地良い空間となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は、手摺りを設置し、歩行がしやすいようにしており、洗面所は車椅子に乗っても使用できるような高さになっている。共有空間全てに表札を掲げ、位置が把握できるようにしている。居室には表札を掲げて、利用者本人の居室の位置がわかるようにし、又トイレには紙を貼ったり、掲げたりとトイレの位置と使用中か否かわかるようにしている。</p>		